

# 学校だより



## ○○の秋 読書の秋

秋といえば、「○○の秋」とよくいわれますが、皆さんはどうな「秋」を思い浮かべられるでしょうか。本校では、朝の読書時間を活用したり、図書室の利用を促したりして、子どもたちが本に親しむ機会を増やしています。

本を読むことで、新たな知識を得たり、登場人物と同じ気持ちになったり、逆に自分と違うなあと感じたりするなど、さまざまなものを見方や考え方ができるようになります。心を穏やかにしてくれたり、驚きや感動を与えてくれたりもします。

しかし、これらのこととは、映画やテレビドラマ、漫画でもできます。では、それらと「読書」の決定的な違いは何でしょう。それは「物語の場面が自分の想像力で頭の中に思い浮かぶ」ことだと思います。

本を読むことは、「想像すること」の連続です。例えば、皆さんの記憶に残る本を思い出してください。

多くの場合、思い出すのは「文章」ではなく、読んだときに想像した場面の「映像」ではないでしょうか。算数の勉強で、問題の文章を図や表に置き換えて考えるのは、まさに「想像力」です。こう考えると、学ぶことに「想像力」は欠かせないかもしれません。

文章から「想像」することは、皆さんの頭の中にある、今までの知識や体験、当てはまるものや似ているものなどを取り出していくということです。したがって、より豊かな「想像」をするには、多くの体験・経験をすることが大切です。実際に体験したり、博物館、美術館で本物に触れたりすることが「想像力」になるのです。

「読書の秋」のためにも「体験の秋」として、いろいろなことにチャレンジしてみて、「想像力」の引き出しを増やすこともとても有意義なことだと思います。ご家庭でも、ぜひ親子と一緒に読書を楽しんでみてく

ださい。

### 「学力が高い」児童の特徴

毎年4月に、全国学力・学習状況調査が6年生を対象に実施されていますが、追加として実施した「保護者に対する調査」によって明らかにされた「不利な環境を克服して学力の高い児童の特徴」が公表されています。

多くの児童や保護者の皆さんにとって役立つ貴重なものだと思いますので、ご紹介します。

### ◇朝食等の生活習慣

- ①朝食を毎日食べている
- ②毎日同じくらいの時刻に寝ている、起きている
- ③テレビ等を見たりテレゲームをしたりする時間が少ない

### ◇読書や読み聞かせ

- ①保護者が子どもに本や新聞を読むようにすすめている
- ②子どもが小さい頃に絵本の読み聞かせをした
- ③子どもと一緒に図書館に行っている

### ◇勉強や成績に関する会話、学歴への期待、学校外への教育投資

- ①保護者が子どもと勉強や成績のことについて話をしている
- ②高い学歴へ適切な期待を

**【学校教育目標】**  
将来への夢を持ち、夢の実現に向かって、たくましく生きる山田っ子の育成

**【校訓】**  
やさしく かしこく たくましく

**【創立151年】**

している

- ③子どもへの教育投資額が多い

### ◇保護者自身の行動

- ①授業参観や運動会などの学校行事へ参加している

### ◇児童の学習習慣と学校の規則への態度

- ①家で自分で計画を立てて勉強している
- ②学校の宿題をしている
- ③学校の規則を守っている

### ◇学校での学習指導

- ①自分の考え方を発表する機会が与えられている
- ②家庭学習の課題の与え方について共通理解を図っている

結果を見ると、ごく当たり前のことばかりのように思われるかもしれません、学力の高い地域では、この「当たり前のことを当たり前のごとくしっかりと実行していることが高い学力につながっている」と言われています。

本校でも、保護者の皆さんと協力して、児童本人に自覚を促し、実際に実行できる児童の数を増やせたらと思っています。



## 11月の行事予定

- 4日（火） 山田まつり2年生参加 熊本大学教育実習開始
- 7日（金） 全校集会
- 12日（水） 一斉下校
- 13日（木） 食育弁当の日、犬童球溪顕彰音楽祭参加（5・6年）
- 18日（火） 金剛小との交流会（6年）
- 21日（金） 人権の花修了式（4年）
- 26日（水） 避難訓練（火災）
- 27日（木） 金融教育（5年）
- 28日（金） 社会科見学旅行（4年）

行事等は変更される場合がありますので、ご了承ください。

### 「言葉の力」～子どもたちに伝えたいこと～

皆さんのが今、隣の友達と話した言葉、今日の朝お家の人に伝えた言葉。その一つ一つに、実はとても力が宿っています。今ではゲームのチャットなど、指先で文字を送り合う時代です。便利な反面、文字だけで「相手の心」を傷つけてしまう怖さもあります。

言葉には、それを聞いたり読んだりすると、人の心を動かす力があります。一つは、「心がフワッと軽くなる、温かい言葉。例えば、「ありがとう、助かった」「応援してるよ」「次はきっと大丈夫」この一言は、魔法のように相手を笑顔にし、勇気を与えます。

逆に、心にチクッとしたトゲを刺してしまう言葉もあります。「なんでそんなこともできません?」「下手くそ」「邪魔なんだけれど」言つた方はすぐ忘れても、言われた方の心には、そのトゲが長く残ってしまいます。皆さんの口からは、普段、温かい言葉とトゲのある言葉、どちらが多く出ていますか?

文字だけのメールやLINEは、「表情や声のトーン」という大切な情報が消えてしまいます。「怒ってるのかな?」「冗談かな?」と、不安な気持ちを間違って伝えてしまうことがあります。便利な道具が、かえって「ずれ違い」を生んでしまうこともあります。返事が少し遅れただけで「嫌われたかも」と不安になり、勝手にイライラして、友達にきつく当たってしまう。もったいないですね。

校長先生は、相手の目を見て、顔を見て話すことが何よりも大切だと思っています。なぜなら、皆さんの真剣な顔つきや、優しい声の響きは、文字では伝えられない「本気」の気持ちを届けてくれるからです。

皆さんが持っている言葉の力は、人を傷つけるための武器ではなく、人を励まし、笑顔にするための魔法です。